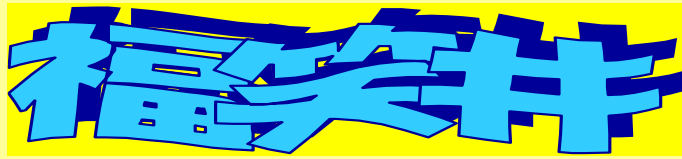


福井県高次脳機能障害者と家族の会

ふくわらい



第 30 号

2023 年 10 月 10 日発行

福井県高次脳機能障害者と家族の会

「福笑井」事務局

令和 5 年 4 月総会、花の寄せ植え

会長 村下 恵美子

3 年間ずっと書面決議で行なった総会もやっと今回対面で行うことができました。直接会って話ができるっていいですね。人と会ったり、話したりができなかったコロナの期間…。感染が下火になるだろうと予想して計画した例会も、第○波の最中で中止にせざるを得ないことも何度もありました。感染拡大防止の為、行動制限され、皆さんとのコミュニケーションを図る事が難しかった 3 年間でした。日常がだんだん戻ってくると、大変だったことも忘れがちになりますが、人とのつながりや、人への感謝など、人としての基本的な感情は大事にしていきたいものです。

さて、今回は花の寄せ植えを行いました。この行事は赤い羽根共同募金の助成事業です。何種類もの（5～6 種類）色とりどりの花の苗を鉢に並べました。土を入れて自分流の豪華な寄せ植えができ、皆さん満足顔の様子でした。室内での土いじりだったので、掃除等ご協力ありがとうございました。お花、元気に育っているでしょうか？花と会話をして花に癒されましょ

うね。本年度も楽しく行事が行えるよう、よろしくお願い致します。

今回の「花の寄せ植え」は、赤い羽根共同募金の助成を受けて行われました。



6月例会 防災の話 ―災害時の防災トイレを学ぼう―

A.A

6月25日（日）に円山公民館にて行われました。

講師は下水道アドバイザーの中村正治氏で、学校や技術講習会で出前講座をされています。阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震、北海道各地域での地震など、近年における大規模な地震災害や、日本各地で起きている豪雨災害などの自然災害により、辛い避難所生活を経験される方が多くなっています。

そこで、災害時に最初に問題となるのが「トイレ」、二番目に「暖房設備」、三番目に「給水設備」とのことでした。私自身避難生活の経験はありませんが、確かに「トイレ」については一日たりとも我慢できない最も大切な問題だと分かりました。我が家の避難袋に、水、食料等が入っていても、携帯トイレを備えてはありませんでした。

また、災害とは違いますが、渋滞している高速道路でのトイレ事情についても、携帯トイレはあった方がよいと感じたことがあります。

防災トイレの種類としては、①マンホールトイレ（例：啓蒙小学校に設置）、②車載用トイレ、③簡易トイレ（段ボールトイレ等）などがあるということです。今後の災害に備える知識としてぜひ知っておきたいことだと思いました。そして、簡易トイレで携帯トイレを使用する経験も必要かなと思いました。

6月例会では講演の他に久しぶりのパコーン練習もあり、盛りだくさんな内容でした。



ピアサポート研修会（今年度 1 回目）が開かれました！

Y.N

ピア・サポーターの基礎 —家族の物語を聴く(1)—

講師 伊藤智樹先生（富山大学人文学部）

福井県脳外傷友の会「福笑井」ピアサポート研修会

2023 年 7 月 23 日 13:00～15:00 Zoom ミーティング

本日の内容とねらい

■ピア・サポートの基礎を「物語」をキーワードとして理解し、特に受傷・発病してから期間が比較的短い人の精神的な状況を想像し、聴くことができる態勢を作る。

■相互に体験談を聴くことを通して、それぞれが自分の物語をもっていることを実感する。

グループ・ワーク

重傷脳外傷の後、命に関わるさまざまな合併症を切り抜け、なかなか回復しなかった意識が戻った患者さんの場合、家族の方々は安堵し、完全な回復へ期待を膨らませるものです。

受傷・退院後間もない時期、ご本人および自分自身はどのような状況だったか、支障ない範囲でお互いに話しましょう。

家族の物語を聴く

今回は、H さんのお話を聴いた後、感想を出し合いましょう（質問も OK）。

参加しての感想

福笑井の会で何度かお会いしていましたが、受傷後の経緯やお気持ちをきちんと聴くのは初めてでした。奥様はいつもにこにここと明るい笑顔で控えめにお話しされる方でした。今日は受傷したご主人のことを話される様子が凜としていて、過去と現在、そしてこれからのことをしっかり見据えていることが伝わってきました。

「これからの人生、お互い高齢で一緒にいられる時間はそう長くない」「みんなの前で話せてよかった」の言葉が心に響きました。つらかった過去のことを話すのは、誰しも億劫になることもあります。人に話すことで、自分の気持ちの整理をしたり、前に歩き出したりする力が湧いてくるのだと思いました。H さん、お話ししてくださり、ありがとうございました。福笑井の仲間といっしょに歩んでいきましょう！

このピア・サポート研修会は、赤い羽根共同募金の助成を受けて行われました。



8月例会 「ぶどう狩りと食事会」

R.Y

今年の夏は、記録尽くしの猛暑でした。その最中の8月27日（日）に、観光ぶどう園「あわらベルジェ」にて、ぶどう狩りを楽しみました。あわら市は福井県の北部に広がる大地で、なだらかに広がる丘陵地を訪ねる度に、北海道にきたような気がします。

ぶどう園には、いろいろな品種が作ってあって、背丈ほどの高さに仕立てられたツルから無数に垂れ下がるぶどう達は、本当に素晴らしかったです。ピオーネとシャインマスカットが食べ頃でした。

暑かったですが、サービスでいただいた梨ジュースで喉を潤しながら、時折吹く涼しい風に夏の終わりを感しました。

食事会は、北潟湖畔の「hana ゆらり」に移動して、湖を見ながらゆっくりと食事を楽しみました。ボリュームがあって食べ切れるかな？と心配しましたが、福笑井の皆さんとおしゃべりしながら完食しました！

帰りに道の駅で、梨を買って、ぶどうと梨を家族へのお土産にして家路につきました。

ちょっと夏バテ気味でしたので、正直なところ大丈夫かなと心配しながら参加しましたが、福笑井の皆さんと一緒にぶどう狩りをしたりランチをいただいたりして、とても楽しかったです。

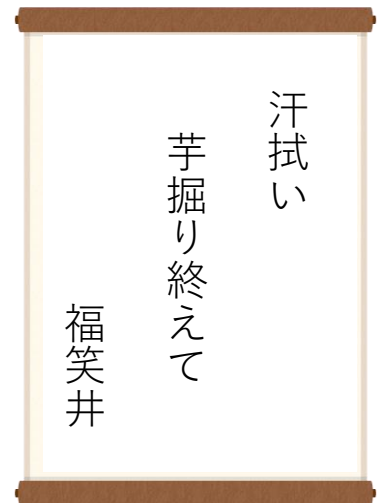


さつまいも掘り



Y.N

9月17日（日）いつもなら秋の初めと言いたいところですが、この日は、7月からずっと続いていた猛暑日で、みんな汗を流しながら、さつまいも掘りをしました。湯浅さんの畑に5月に植えたさつまいも（紅あづま）が見事に大きく育っていました。



加藤絹代さん (75歳) お悔やみ申し上げます

「福笑井」発足当時から会員だった夫の加藤陽一さんを支え、役員もしていただいた加藤絹代さんが、令和5年8月8日にお亡くなりになりました。

福笑井が平成19年の発足から16年も経過するうちに、会員や家族の中からもお亡くなりになられる方が出てまいりました。

加藤絹代さんは会の中でも、いつも明るく前向きで、特に川柳が得意で、この「福笑井」機関誌に何回も投稿していただきました。加藤さんの川柳は温かく、とてもユニークですので、読む人の心をほっこりさせてくれました。

また、福笑井がパコーン太鼓を取り入れて山内さんから指導していただき練習しているのも、加藤陽一さんが以前から太鼓をなさっていて、同僚の山内さんをご紹介していただいたおかげです。おかげで太鼓の活動も充実してまいりました。

こんな時に、こんなに早くお亡くなりになられて、とても残念です。

もっといろいろなお話をしておきたかったと後悔の念が湧いてきます。

加藤絹代さんのご冥福をお祈りしたいと思います。 (平井、記)



言い訳の上手な鳥は美しい

今日もまた 私のドラマ
黄昏る

幸せのレシピそよ風ひとつまみ

悩んでも 悩まなくとも 道ひとつ

ふくふく「川柳」
福井市加藤さん

春風のようにいつでも 君という

スッピンに慣れて図太さ また増える

卒業へ無限を抱いて 進む道

初恋の 来た道今は 風の街

チャンスなど 無かったように
さくら咲く

✿ 会員募集中！！ ✿

「福笑井」は、高次脳機能障害者および家族が、生き生きとした生活ができるよう、福利と親睦を図り、社会に対して働きかけ、高次脳機能障害について理解を広めることを目的として作られた会です。

皆様の入会、応援、ご協力をお待ちしています。

年会費 正会員家族：3600 円 賛助会員：2000 円